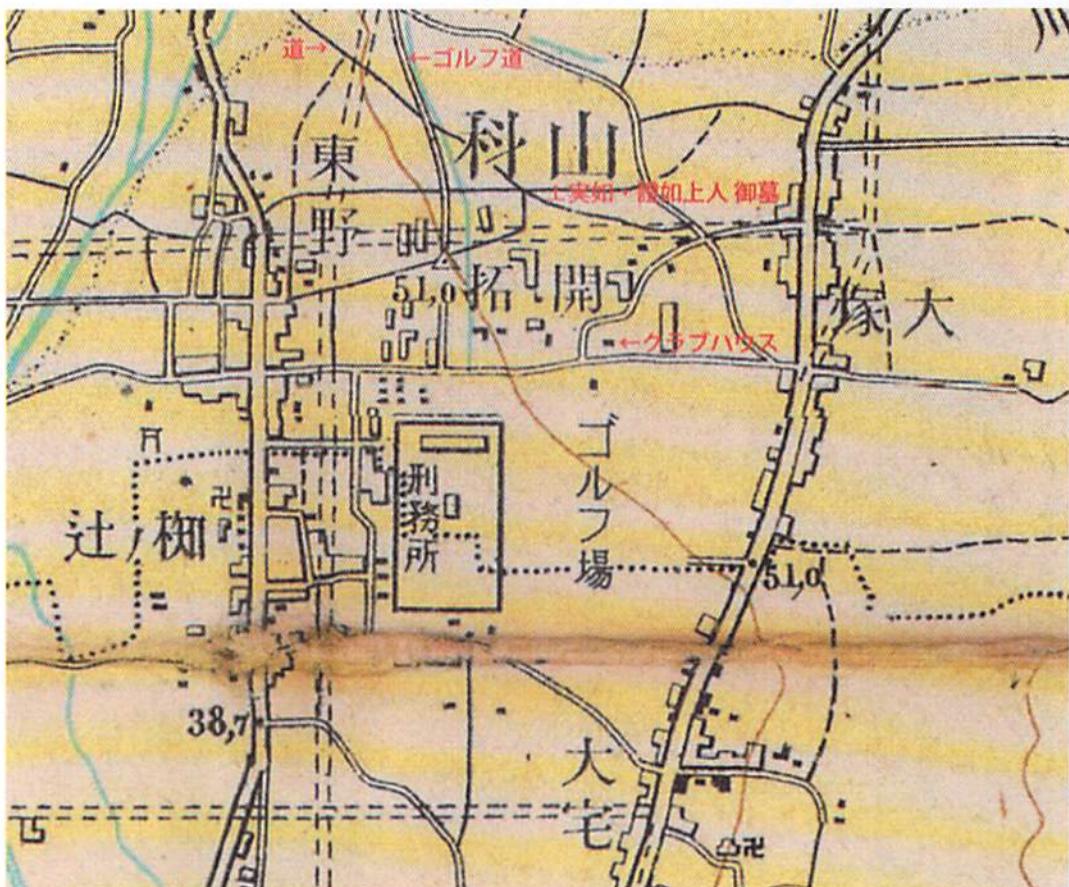


2016.10.10.実施 山科の魅力探訪－あなたも地域の案内人に－

## 妙見道コース

～洛東高校本『山科古図』を読み解きながら妙見道を歩く～



昭和10年京都市全図（一部）↑

日 時 平成28年10月10日（月）10：30～15：00 予備日12月4日（日）

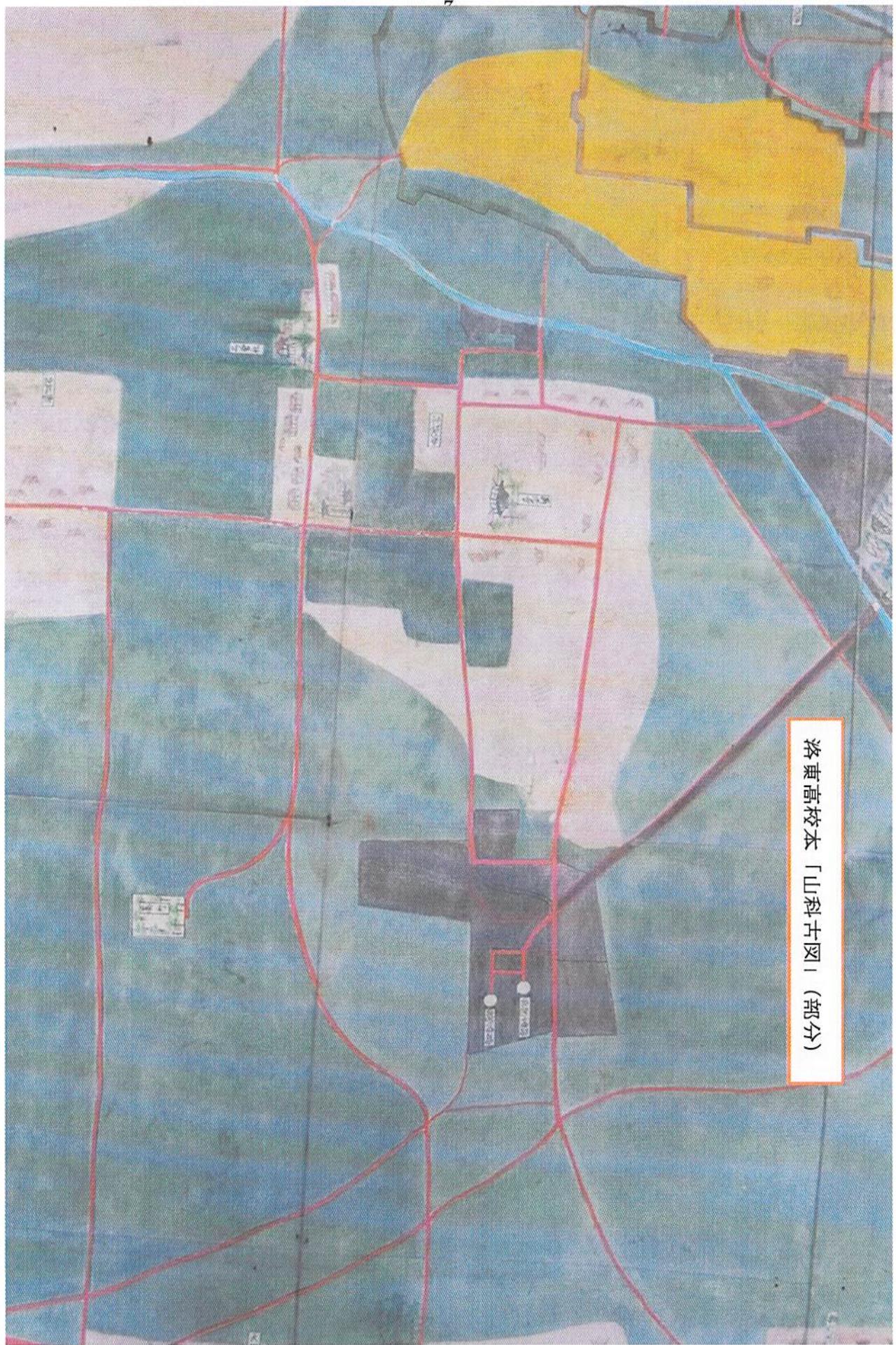
コース 集合：地下鉄東野駅改札前（10:00）—ゴルフ道—實如上人・證如上人御墓—皇塚—旧国鉄引込み線路下トンネル跡—妙見寺（トイレ有）—一天神社（トイレ有）—一座学【①お話「龍神の祠（雨乞い施設）について・②紙芝居公演「東野村の人々と熊谷蓮心翁—表徳碑物語」、③お話「東野村開拓と井上馨】—昼食・休憩—妙見道 古井戸—夜学跡—妙見宮碑—温室ブドウ園跡—ゴルフ場跡—京都刑務所—外環状線—仏光寺旧跡碑—称名寺鍬形（痕）観音拝観—熊谷蓮心「表徳碑」—車石灯籠—三之宮—上村堤防—東野北公園（トイレ有）—真光寺—東野駅解散—



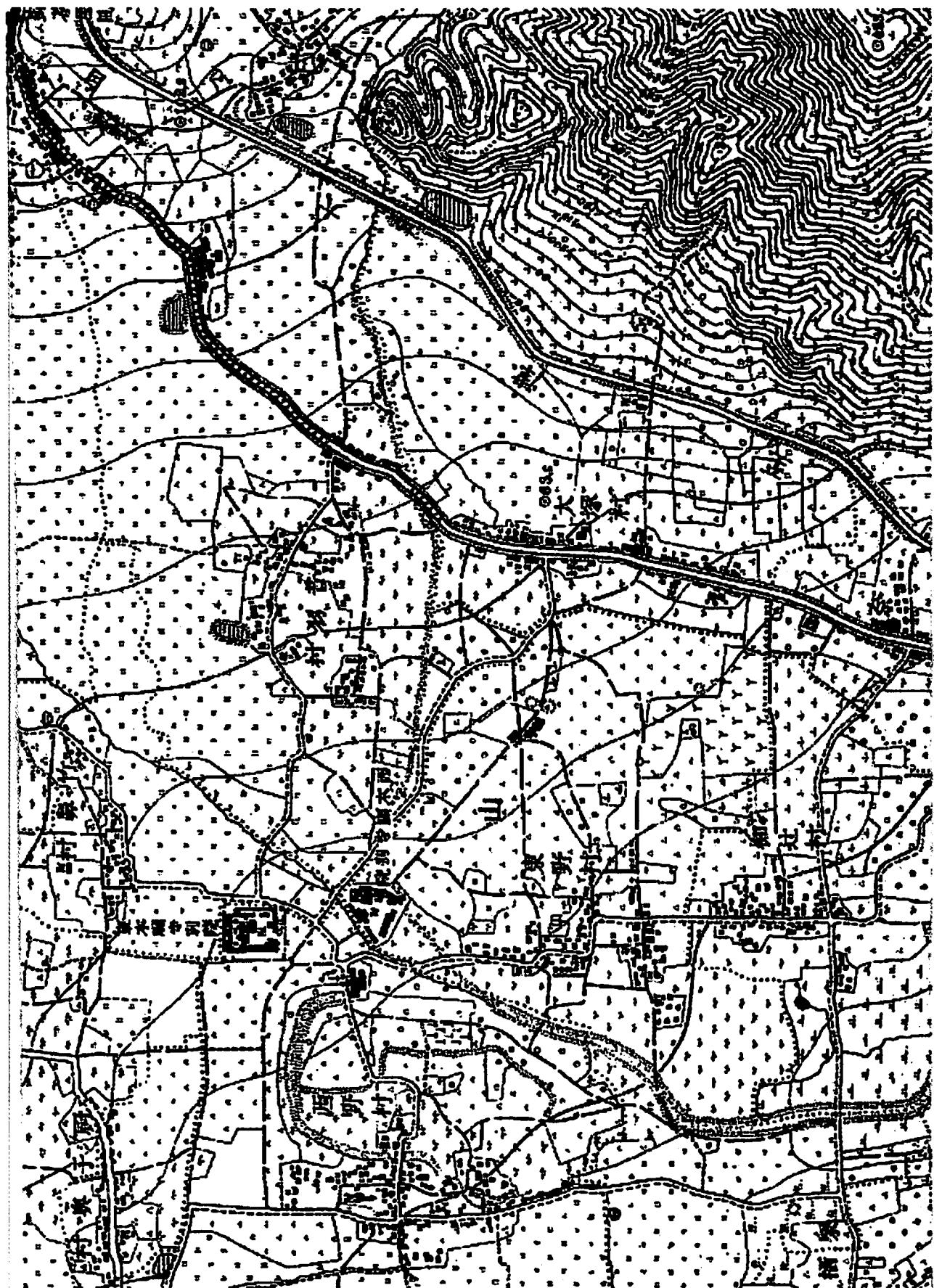
主 催 ふれあい“やましな”実行委員会

問合せ先 山科区役所まちづくり推進課

案 内 やましなを語りつぐ会（代表 中山藤晤）



洛東高校本「山科古図」(部分)



明治22年測量地形図（大日本帝国陸地測量部）西野村、東野村、大塚村、音羽村など記載。

**妙見道コース案内関連年表**

1323	元享 3年	空性房了源、東野に興正寺建てるが7年後に汁谷に移転し仏光寺に改める。
1346	貞和 2年	この頃、山科七郷（野村・大宅里・西山・花山・御陵・安祥寺・音羽）成立
1396	応永 3年	後小松天皇、大般若教600巻、大般若十六善神本尊を三之宮に下賜。
1478	文明 10年	蓮如が西野地域に山科本願寺造営を開始。※明応8年（1499）蓮如上人没。
1532	天文 元年	山科本願寺が細川晴元、六角定頼、法華宗徒などにより焼き討ちにされる。
1594	文錄 3年	山科より伏見城築城石材を出す。（『甫庵太閤記』）
1601	慶長 6年	家康、山科18ヶ村6500石を禁裏御料地に。
1613	慶長 18年	安祥寺村と朱雀村が合併安朱村となる。
1665	寛文 5年	公海が、出雲寺（京都上京区）を山科に、毘沙門堂再建。
1673	延宝 元年	安朱村、禁裏御料地から毘沙門堂領になる。
1732	享保 17年	西本願寺山科別院が東野にできる。
1736	享保 21年	木食正禪、日ノ岡峠改修、人馬道碑建立。
1737	天文 2年	東本願寺山科別院が竹鼻にできる。
1804	文化 元年	京津街道改修工事絵図（車道敷石敷設・修復計画絵図）幕府大工頭中井家作成。
1805	文化 2年	脇坂義堂らの進言で大津～日ノ岡峠間に「車石」敷設。
1825	文政 8年	熊谷蓮心（1783～1859）老衰牛馬放生勧進辯『牛馬放生すすめぐさ』発行。 東野村に放牧場開設し、村人に管理させた。
1879	明治 12年	京都～大谷間鉄道開通→1921（大正10年）旧東海道線廃線。
1888	明治 21年	東野村村民が「表徳碑」を建立。
1889	明治 22年	宇治郡山科村発足。
1890	明治 23年	琵琶湖第1疎水完成。
1912	大正 元年	京津電車、三条～札の辻間開業。
1918	大正 6年	東野に仏光寺舊址建立。
1925	大正 14年 1月	京都ゴルフ倶楽部 東野に開設。
1926	大正 15年	宇治郡山科町となる。
1931	昭和 6年	山科町、京都市に編入。
1931	昭和 6年	京都刑務所、東野に移転を完了。
1958	昭和 33年	大宅廃寺発掘。
1963	昭和 38年	名神高速道路（栗東～尼崎間）開通。
1964	昭和 39年	東海道新幹線開通。
1967	昭和 42年	外環状線（山科～醍醐間）開通。
1969	昭和 44年	中臣遺跡、洛東高校生が発見。
1976	昭和 51年	山科区誕生
1997	平成 9年	地下鉄東西線開通。

◇

明治初年各村戸数（明治初年宇治郡小学校組合一覧表より作成）

東野村 51戸、柳辻村 42戸、大宅村 68戸、大塚村 48戸、音羽村 73戸、  
西野村 74戸、川田村 54戸、（他村略）

## ■ 1. 中央用水路

ゴルフ道に沿って地元の農家の方が中央用水と呼ぶ用水路が流れています。経過は不明な部分もありますが、東野の人々が願い出て、明治37年に東野新川用水路として開削されたものと考えられます。東野の方が所有されている明治19年の「琵琶湖疏水分流掛り反別増収収穫見積書」によれば、あらたに三十四町歩に導水し、増収は四百三十 三石余り、代価は二千百六十九円と記されています。灌漑地域は、東野は片下がり・門口・百拍子・八反畠、柳辻は草街道・東浦・中在家などと伝えられています。開削当時は四ノ宮川の音羽沢に取水口がありましたが、昭和57年に廃止され、山科川の桜橋上流に取水口を設けています。

昭和12年に東野井上町に龍池小学校山科学舎が設置されましたが、昭和28年卒業した眞田幹雄氏は、「巾1メートルほどの清冽な小川があり、夏にはホタルまで飛んでいた。岸にはリガたくさんあり、摘んだ覚えもあります。」と会誌「笹の音」第5号に記されています。

山科の農家は水不足に悩んでいましたが、疎水通水（明治22年）に際して、「償水」の名のもとに、疎水の水を活用したことが分かります。

音羽用水：明治23年着工

東山用水：明治24年7月着工

上村用水（水堤防）：明治30年登記

中央用水：明治39年登記

例1 井上 五拾四番ノ十六 山林 明治四十一年二月廿日 五十四番より分割〇〇 〇〇

二十八年十月十八日因り開墾。全年ヨリ四十年迄十三ヵ年鍼下年期明治四十一年  
二月廿日 と表記されています。〇は所有者名が書かれていますが、省略しました。  
なお、鍼下年期とは、1884年（明治17）の地租条例で、開墾後、地目変更までの一定期間です。

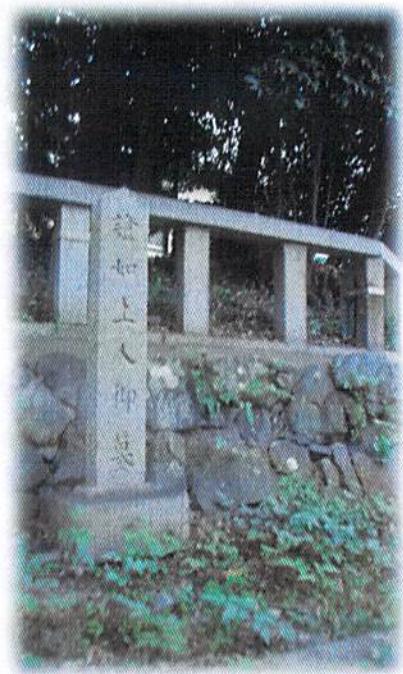
例2 井上二拾番ノ壹畠 明治三十九年十二月八日処分 用悪水路成

これは明治三十九年十二月八日に用悪水路が完成し登記されることを意味します。なお、当時の新聞が山科郷の人々の願いを次のように伝えています。

山城国宇治郡御陵村外数箇村即ち山科郷の人民が主張するかの琵琶湖疏水本線より分水線を引き同郷旱損を招き易き田畠の旱損予防に供せんとの事は既に其郡長より疎水事務所及び京都府庁に紹介したる所その回答に現今工事上右分水線をひくの計画あらざれども分水線の工事を山科郷人民が負担するものと見こみ居るに因り旱損を予防するの水を分与する考案なりとありしを以てすなわち郡長は斯くと人民に伝えしに人民ハ費金支出の事に付きてなお、彼此言合へりといふ。

（1888（明治21）年4月28日付朝日新聞朝刊より）

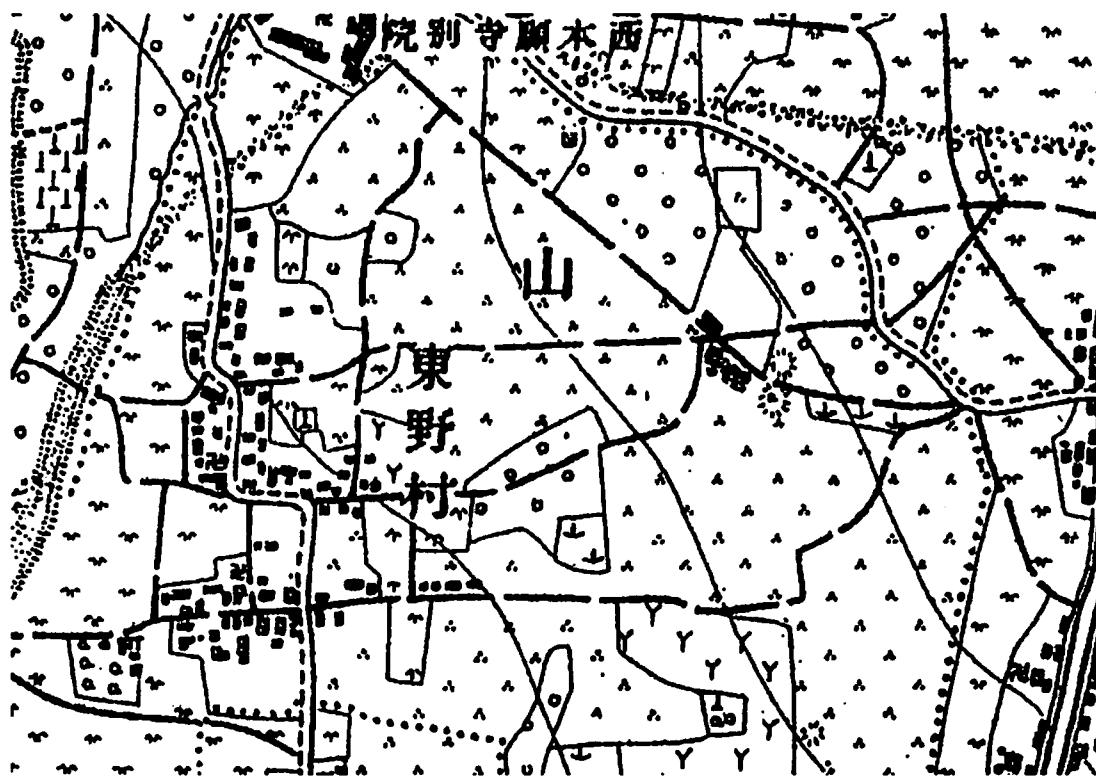
## ■ 2. 實如・證如上人の墓所



中世の山科に「本願寺」があった 54 年間の宗主は、蓮如が 21 年間、實如が 26 年間、證如が 7 年間です。山科本願寺寺内町の土壘と掘が完成したのは實如の時代と言われています。實如の葬儀の模様を醍醐寺巖助は、「供養のため諸国から参集した人は数十万にも達し、葬儀はかつて見たことがないほど盛大であった」と日記に記しています。實如の墓所は蓮如の墓所より北東約 700m の所にあります。東海道新幹線が開通するまでは、西本願寺山科御坊の南出口から一直線の道があり、北東約 500m 向こうに實如墓所の森を見る事ができました。實如の時代に本願寺が大きく伸びたと言われていますが、このことが却っていろいろ迫害を受ける結果となりました。

證如は父圓如が祖父實如在世中に没したため、10 歳で本願寺第10 世を継職し、7 年後には山科本願寺焼き打ちに遭い、山科の地を離れ大阪の石山本願寺へ移りました。證如は 1554(天文 23) 年石山本願寺で没しました。享年 39 歳でした。2ヶ月後、祖父實如の墓所の南隣に塚を築き遺骨が納められました。なお、證如の父圓如の墓所は小山にあります。

■3開拓 ①—地形図で変化を確認—



↑明治22年測量陸地測量部制作 —植生の違いに注目— ↓明治42年測量地形図



## ■ 4. 開拓②（表紙の都市計画図参照）

「筆者が子どもの頃は一面田んぼで、赤屋根二階建ての柳池小学校の林間学校がひとつ ぽつんと建っているだけだった。」(『歴史の眠る里 わが山科』(飯田道夫著、平成 27 年 5 月 (株) 人間社発行) と記述され、「南を見ると、かすかに笠置山が見えた」と父から聞いている。小学校 のとき (昭和 10 年代後半) に、お前どこの子やと聞かれ話したら「開拓の子か」と言われたと思い出を語っておられます。

明治 42 年地形図には東野に井上と記され、一面が田になっています。明治 22 年測量の大日本帝国陸地測量部の地形図では、茶畠や雑木林であった所です。大規模な開墾が行われたことは明らかです。その経過を、京都府宇治郡誌 (大正 12 年 3 月編集) では、次のように記述しています。

耕地も亦大いに開拓せられ山科村東野俗称開拓の如きは明治当初参議井上馨、戸長阿口源蔵等の努力により山林を開墾せし所なり、水利は古より各所に溜池を設け溝渠を穿ち水掛りと称して該用水を以て灌漑する地主小作相倚り之が維持經營をなし来たりたりしが、特に明治 24 年京都運河の開通の結果、郡内北部山科の如きは各地に用水路を穿ち爾來旱魃の憂いを見ざるに至れり、其他明治 32 年耕地整理法の公布以来、郡内各村に於て漸次耕地整理組合を設け、耕地の利用増進を図り郡事業として郡内各所に試験田を設け實地に就きて農耕栽培の指導をなし郡農会亦懸賞田を設けて鼓舞奨励を加えたり、(中略) 大正九年に於ける本郡耕作田自作地五百六拾四町歩小作田五百五拾四町歩にして米産額は弐萬五千二百五十八石此價額八拾參萬圓既往五箇年平均作高二萬二千七百 六十七石にして平均一反當ニ石三斗一升九合、五カ年平均ニ石七斗四合を示せり。(p 13 6 ~ 13 7)。

また、1884 (明治 15) 年 4 月 1 日付朝日新聞大阪朝刊 (p 2) に下記の記事があります。

宇治郡山科郷にある井上馨君の所有地は先年より横村正直君が借り受けて、桐苗数千本を培養せられしが、此頃如何なる譯かや右地の立木或いは小苗に至るまで悉皆取除きに着手せしと。

この記事で井上馨が山科郷に土地を所有していたことが分かりますが、場所を裏付ける資料を次に紹介します。一つは、昭和六一年一月京都新聞で報道された、岡本洋氏 (山科の歴史を知る会会長) の発掘資料「明治 10 年改正、開墾地其他丈量求積簿」で、表書きには宇治郡第一組東野村、西野村、棚辻村の内、山口県士族井上馨 (次ページ参照) と記され、「井上氏の所有地三十八町四反余り (約三十八ha) と記され、ほとんどは荒地か林で当時の同地区の様子がよく分かる。」と記述されています。もう一つは、東野の N 氏所有の行政文書、「明治拾年藪林等級収穫地代價取調帳」宇治郡第壱区東野村には、井上馨欄に「林九町六反五畝七歩収合八石六斗八升七合成地代金三百七拾九円六拾二枝跡三 庫八毛」と記されています。同様に「明治拾年田等級収穫地代價取調帳」にも、井上馨の名があります。したがって、明治維新後大蔵省に入った井上馨が東野の開墾願いを出していますが、明治 20 年代の旧土地台帳には井上馨の名は見当たりません。多くの土地が京都養蚕株式会社の支配

人であった宮井悦之助（上京区柿本町）の所有地となり、琵琶湖疏水事業に関わった片山正中に譲渡されています。どのような経過で所有地を手放したか、茶畠や桑畠と井上馨、開拓と井上馨の関係、疎水事業との関係など、なぞは深まり興味はつきません。

## ■ 5. 皇塚

大塚村について、次のような紹介がされています。

さて、当村の歴史は古墳時代に第1歩が記される。村内にはかつて古墳がいくつか点在し、大塚の名も御塚が転じたものといわれるが、村内の西浦町には大塚古墳と称される直径20メートルの円墳が存在した。その一部がいま、奈良街道に面する一段高い盛り土の上に「皇塚」の碑が建てられ、残されている。また、音羽中学校付近からは、やはり古墳時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡、それに土器などが発見されている。しかし、これ以降、平安・鎌倉時代と当村に関わる資料は確認されていない。次に当村が歴史上登場するのは、室町時代になってからのことである。応永14年（1407年）2月11日に、当村の本所が聖護院であったこと、理由は定かではないが、聖護院の命に従わなかつた農民が逃散したことが述べられている。（「史料 京都の歴史 11 山科区」）

## ■ 6. 旧東海道線（引上げ線）線路下トンネル跡



旧東海道線の山科駅（現在の小野小学校北付近）から大谷駅（現在の京阪大谷駅付近）の間は、上がり方向に向かって急な勾配が続いています。当時の時刻表には汽車は下りの10分に対して上がりは17分も時間を要していました。1913（大正2）年列車本数の増加により線路容量不足を解消するために、大塚地域に「大塚信号所」が設置されました。信号所にはスイッチバック式の引上げ線が設けられました。妙見寺の南にある大鳥居奥東側に煉瓦造りの壁面が見られます。入口はコンクリートブロックで閉ざされていますが、これは、引上げ線下にあったトンネルの入口跡と伝えられています。

隣接での新築工事の際に、掘り下げたら上質の花崗岩が埋められていると連絡を受けて、文化財保護課の担当者が調査されました。担当者は近代建造物につい

ては保存が少なく貴重な建造物と説明されました。（『京都山科東西南北』p20参照）



↑2009年3月7日撮影



↑2011年8月26日撮影文化財保護課の調査風景

## ■ 7. 妙見寺

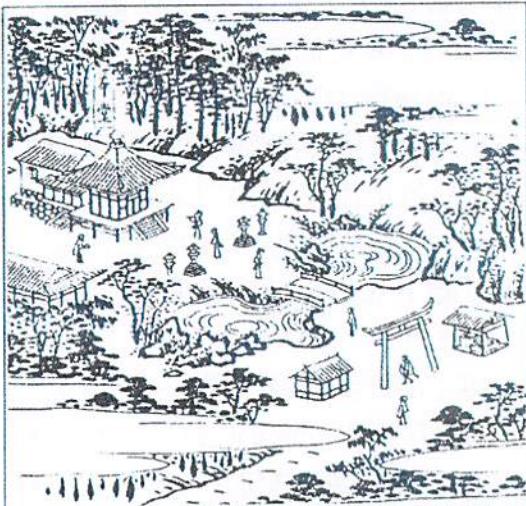
妙見菩薩像は眼病平癒などを願う人々に信仰されてきました。江戸時代

「月堂見聞集(げつどうけんもんしゅう)」は「山科大塚村妙見菩薩諸人參詣の濫觴(らんしょう)は、去年秋の比去者眼病を憂て、大谷曰親上人の墓に百日 の間參詣す。或夜夢想に云く。汝が眼病は山科の妙見菩薩に祈讐すべしと。其後參籠するに忽に癒ゆ。是より初まるといへり」とあります。江戸時代には多くの信仰を集めていたようです。現在も妙見講として受け継がれています。以下は『道標に見る山科』(山科の歴史を知る会)より転載

妙見信仰は江戸時代に寿福、開運、厄除けを願う人々により盛んになった。当時は鳥居もあり、妙見信仰の神仏習合の姿をよくとどめている。

### 宇治郡誌

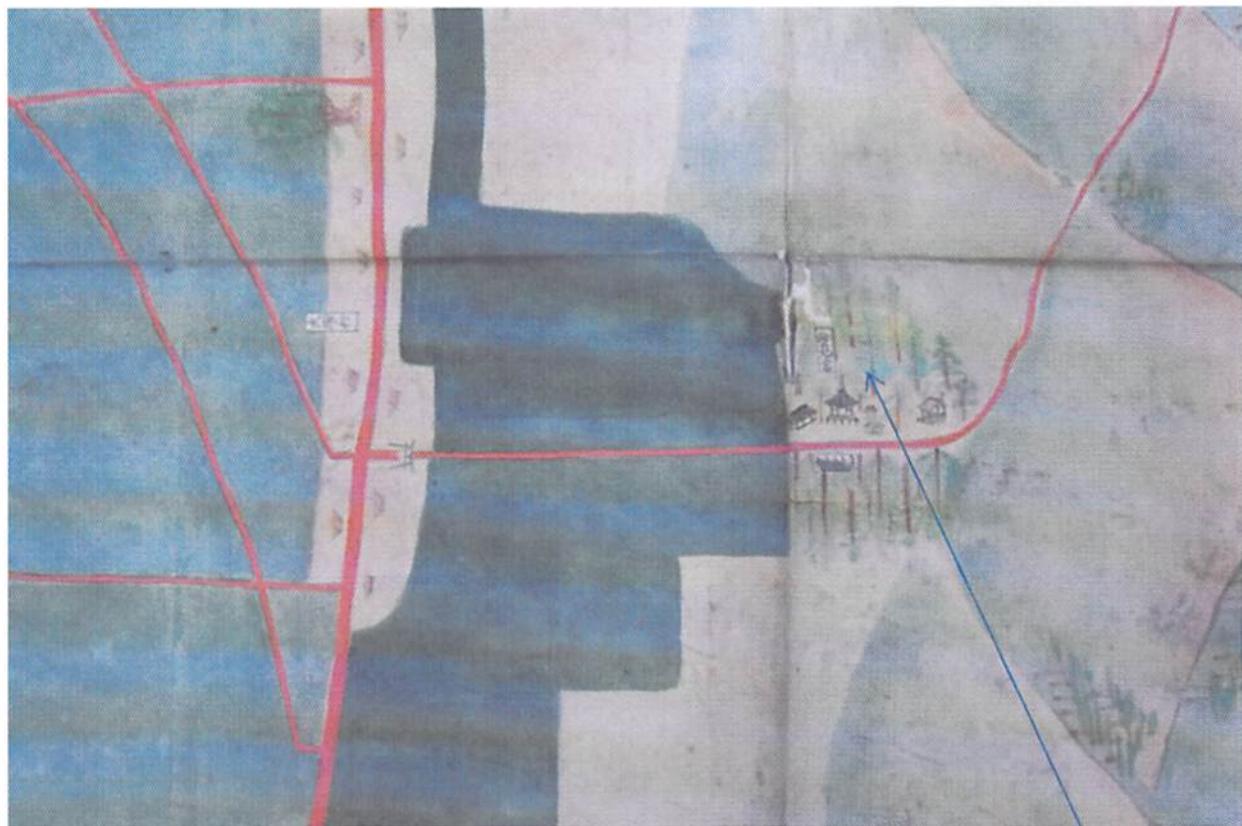
護法山と号し本尊は妙見大菩薩なり、



山科妙見堂 拾遺都名所図会(1787)部分

故に世俗妙見堂と称す。創立不詳、開基亦不詳なり。然れども、桓武天皇の御宇王城の四方に祀りし星の宮の一なりという。何れのときか堂舎焼失して後、大いに衰廃し本尊妙見の像久しく土中に陰没せしを宇都宮左衛門尉朝綱なる者之を得て守り本尊となし崇敬し居たりしが、遙かに星霜を経て寛政年中僧日詳堂宇を再興し後、明治2年に至り日蓮宗となりたりという境内三百二十一坪あり（京都府宇治郡誌より）

☆皇塚を探してみましょう



洛東高校本「山科古図」(部分)



日ノ岡峠にある道標

妙見堂



**妙見寺に関する資料と意見**(本会定例会での小嶋金之助氏報告より抜粋)

江戸時代、貞享三年（1686）に刊行された雍州府志に、妙見なる記事が2件あります。

妙見菩薩の社 京極今出川の北、立本寺にあり。これまた、日蓮宗の寺院に、多くはこれあり。天神の宮 大塚村にあり。この処の氏神なり。 星の宮 同処にあり。妙見菩薩を祭るところなり。相伝ふ、春日の神作にして、宇都の宮弥三郎朝綱が尊崇するところなり。

此の星宮の妙見菩薩が妙見寺の始まりなのでしょうか。江戸時代、山科は禁裏御料として知られていますが、支配は京都所司代下の京都代官が行いました。その為村役人から京都代官に提出した文書が残っています。

貞享より少し下がった元禄五年六月（1692）に、大塚村庄屋、年寄一同より京都代官

小堀藤三郎に出された 城州宇治郡山科郷大塚村寺社御改之覚 です。 対象社寺は 宝迎寺 善念寺 明見寺 天神社 です。煩雑ではありますが全文を載せます。妙見寺については以下の通りです。

城州宇治郡山科郷大塚村寺社御改之覚

屋舗地 東西三間四尺、南北五間 無住

一、除地境内 東西七十弐間、南北五十間 堂 式間四面、柿葺 無本寺 明見寺

宇都宮弥三郎朝継守本尊之由申伝候。年数知不申候。

元禄五年申六月

大塚村庄屋 太右衛門 年寄 清左衛門 久右衛門 久兵衛 源右衛門  
善右衛門

小堀藤三郎様（克敬）

もう一つ、覚が残っています。宝永二年七月（1705）の覚です。元禄五年の十三年後の日付けの物です。

一、妙見（菩薩）除地 無本寺 妙見寺

境内 長七十二間 横五十間 堂 式間四面 但板葺

是ハ宇都宮弥三郎守本尊之由申伝候。往古ハ火ともしの出家御座候由申伝

候へとも、只今ハ式間四面板葺之堂計御座候。……以下略す。

宝永二年酉七月

新右衛門 久兵衛 権左衛門 源右衛門 九郎右衛門 四郎右衛門

吉右衛門 宝迎寺 善念寺

小堀仁右衛門様（克敬）

無住 無本寺は変わっていません。覚は、殊に無住の件について元禄の時などより詳細に、往古には火ともしの出家云々と述べています。何か無住の事について問われたかとも思われます。何故かとか言うと、此の間を置かぬ二度目の改めとは、目的は何かと疑問が湧きます。其れに関連するかどうか知りませんが、宝永四年三月に、山科郷の分担によって三条街道（東海道）が修復されています。此の大工事に繋がるものが、有るように思われます。

抑、しばしば、此の寺の事が語られる時、月堂見聞集の記事が引用されます。此の書は本島知辰が、元禄より享保末年に至る三都を主として諸国の巷説を筆記したものであります。さて引用箇所ですが、享保十一年十月（1726）の条に2件有ります。

妙見堂へ参詣に付き言上の覚

城州宇津郡山科郷大塚村領山岨に、従往古妙見菩薩之小堂有来候、当夏比より参詣人少々有来候處、頃日は毎日他所より参詣人次第に多く罷成に付、御断申上候。以上

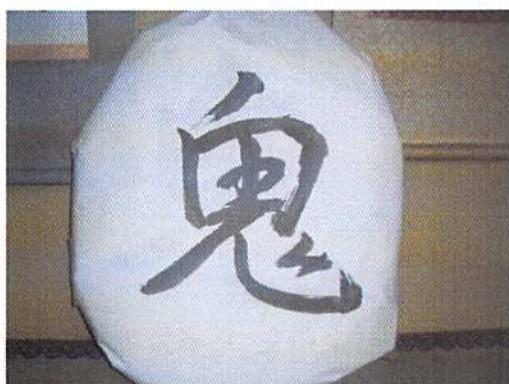
山科大塚村妙見菩薩諸人參詣の濫觴は、去年秋の比去る者眼病を憂て、大谷日親上人の墓に百日の間参詣す、或夜夢想に云く、汝が眼病は山科の妙見菩薩に祈誓すべしと、其以後参籠するに忽に癒ゆ、是より初るといへり、山科蓮如上人の墓より十四五 丁東

に當て、六地蔵街道の東の方山の麓也、中略 開帳銀一枚づつ也、…… 以下略す。

### ■ 8. 天神社

妙見寺の東の山裾に天神社があります。「本社の祭神は菅原道真公にして創立年代詳らかならず。境内二百五十坪あり。」と大正12年3月脱稿された京都府宇治郡誌に一行だけ記述されています。府庁文書には、「伝来書記ハ文政三年三月出火ノ際悉ク焼失シテ創立年不詳。古老口碑云。往古此社奥ノ山ヨリ鬼人毎夜出テ村民ヲ惱シ、深記ク心碎シテ鬼人ヲ弓箭ニテ打殺サント欲スレドモ能ハズ。之レニ依リテ此神ヲ日日ニ祈誓シ、終ニ村民集嘸シテ弓箭ヲ以テ打チ殺ス。之全テ大神ノ神徳ニアラント欲ス。時ニ二月七日ナリ。之ニ依テ今ニ至ルマテ毎年二月七日神祭シテ鬼ノ字書載シ、弓箭ヲ以テ打平クノ式ヲ執行スルナリト。明治六年七月、村社ニ列セラレル。」と「お弓祭」の由来が記されています。

現在も氏子の方々により、毎年春には「お弓祭」、9月には放生祭が斎行されています。また、山の中腹に少し水の滴る場所がありますが、そこに龍神様の祠が祀られていて、明治の終わりごろまで雨乞いの儀式が行われ、四隅の竹に白い布を縛って建て、ふもとから、白い布が見えたと伝えられています。音羽用水の建設により、水利が改善され次第に儀式は行われなくなったといわれていますが、今も、地元の方がお守りされています。



天神社「お弓祭」で使用される的



山の中腹にある龍神様の祠

そこで、私たち「やましなを語りつぐ会」が2010年のフィールドワークの際に、天神社の総代さんから伺った、竜神様の祠について紹介します。水の便が悪く、旱魃に見舞われた地域ですから、とりわけ雨乞いは、大切な儀式だったと思われます。

文政6(1823)年の日照りによる旱害があり、飢人調査が行われ、京都代官所に次のように報告されています。

村名	惣人数	飢人	村名	惣人数	飢人
竹鼻村	238人	235人	西野村	340人	336人
日ノ岡村	157人	157人	四宮村	236人	236人
音羽村	330人	330人	大塚村	247人	245人
西野山村	296人	292人	東野村	202人	202人

### ☆竜神様の祠（旧大塚村に伝わる雨乞施設）別紙資料

## ■9. 指月城の石垣が里帰りして、天神社に展示



指月城の石垣から発掘され、産地である山科に戻った石(上段三つ)=京都市山科区大塚

豊臣秀吉が1592（天正20、文禄1）年から造営したとされる指月（しげつ）城（京都市伏見区桃山町）で発掘された石垣の石が、原産地とみられる山科区大塚の天神社に「里帰り」した。貴重な石を広く見てほしいと、地域の住民たちが整備に取り組んでいる。

天神社東に位置する「行者ヶ森」の山地一帯は、中世～近世に火山岩の一種、石英斑岩の石切場として栄えた。軟らかく割りやすい上、近くを流れる音羽川の水運によって、二条城や大坂城の石垣にも用いられたという。現在、京都市の遺跡地図にも登録されている。

今回、天神社に「里帰り」した石垣の石は縦40センチ、横80センチ、高さ数十センチの石英斑岩三つ。今年6月に見つかった指月城の遺構から出土した。地域史を研究する武内良一さん（75）ら3人が、指月城の発掘に当たった民間の発掘調査会社に依頼し、現場で石垣石を見学した。

武内さんたちは、持参した山科石と発掘された石の色や性質、含まれる鉱物の量を目視で比べ、歴史資料を確認した。その結果、発掘された石垣石68個のうち約3割が山科産とみられることが分かった。発掘調査会社と協議し、「地域の石が指月城築城に貢献した」として、そのうちの三つを譲り受けた。

天神社を管理する近隣住民たちも境内への設置を快諾し、8月上旬に石を搬入。地域の造園業者が石の周囲を整備し、今後は案内板を設置して広く公開するという。

市文化財保護課は「化学分析は行っていないが、山科産の石英斑岩と特徴が一致している」としており、天神社保存会総代の平井信夫さん（72）は「指月城の石垣として由緒ある石が戻ってきたのは意義深い。山科の石切場が全国に重宝されていたと知ってもらう機会になれば」と話している。（2015年10月21日付京都新聞より転載）

#### 《寄り道》

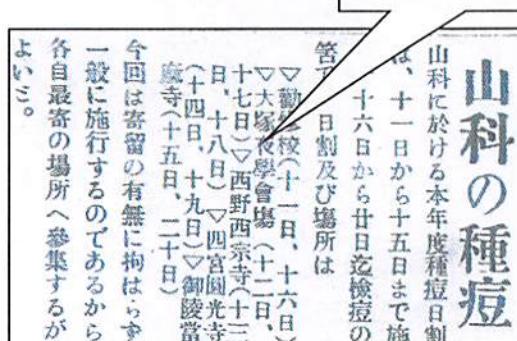


左 妙見道 道標は妙見道が奈良街道と交わる西にあった（現存せず）

右 妙見宮 道標は奈良街道と交わる東に建立。側面に臼の出講とある。

#### ■ 10. 宝迎寺境内にある学の瓦

大塚夜学会場と案内



宝迎寺の隣に古びた建物がありますが、これは元々地元の方々が「夜学(やがく)」と呼んでいた建物で、現在は地域の集会所として活用されています。さて、山階小学校は明治5年に開校しています。大宅地域では、資料により明治の10年代には青年たちに読み書きを教える学校を運営したことが明らかになっています。「夜学」ということばから、時期は不明で

すが、大塚地域でも、地元の青年が学ぶ場所と考えられましたが、それが、昭和2年5月の「大正新報」の記事で確認できました。

## ■ 11. 城山菊太郎の温室ぶどう園跡

開拓とよばれた東野地域に明治43年に温室によるブドウ栽培を実現した先人が城山菊太郎です。そこで働いていた木村太一郎らも大正時代に温室ブドウ栽培を行っていましたから、昭和の恐慌で温室栽培を終えても、いくつかの温室が残っていました。なお、城山菊太郎の業績は次のように書かれています。

城山菊太郎は山科に於いて普通農業経営の傍ら、葡萄栽培に着眼し、明治36年末、甲州（中略）畑地4反歩定植し、東山一帯の渓谷的気象に災せられ栽培の成果予期の如くならず。到底、成功の見込み無難と氣付き、此の上、天然の気候をある程度に左右し得る硝子室温室栽培に着手（中略）明治43年冬、三間に十二間の木骨葡萄室を建築し、主としてマスカットオブアレキサンドリア、ブラックハンブルグを定植、その成績良好なるに鑑み、一方、室内葡萄の生産と葡萄室建築方法の研究の必要より、明治45年には四間に十五間を建築。（中略）大正11年に青山氏と協力して十二間に四十間の総鐵骨大葡萄室を建築し、大正15年は鐵骨葡萄室4棟千坪の建築を成した。氏は今日（表彰時は昭和15年2月11日）齢60歳迄終始葡萄栽培に一身を捧げ、家計を省みる迄も無く貢献した。又、此の間葡萄栽培の研究者は、全国から氏の門を叩き、氏もまた熱心にこれ等の人々に自己の経験を披露して指導を貰きたる功績は頗る大なるものがある。（「園藝功労者業績録」昭和15年6月1日発行  
社団法人 日本園藝會）



《寄り道》



奈良街道を過ぎて西に向かうと、駐車場の奥に翠綠園と刻まれた石碑のあるのをご存知でしょうか？ 裏には大正6年とあります。長い間、翠綠園とはどこにあるお庭か分かりませんでした。先日、向にお住まいの「国さんのweb」の国枝さんにお訊ねしたところ、国枝邸のお庭にある大灯籠とおなじく元は東野にあった井村の別荘にあったもので、別荘が壊されるときに、引き取ったようだとのお話でした。

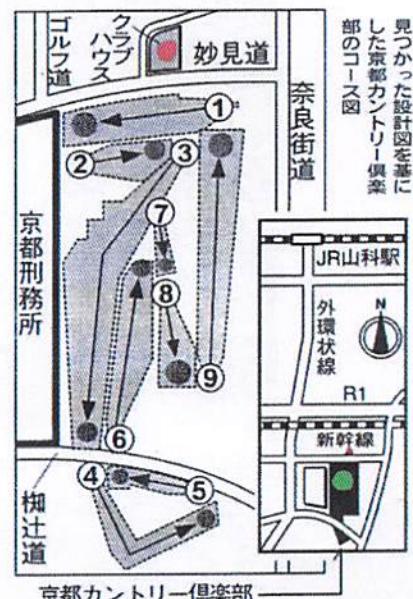
## ■12. 旧京都カントリー倶楽部跡とゴルフ道

妙見道の南に京都刑務所が見渡せます。その途中に三条通りに抜ける直線道路、通称「ゴルフ道」があります。「国さんのweb」に次のような記述があります。

当時外れたゴルフ球が西隣の京都刑務所の高い塀越に、しばしば飛び込んだ。その外れ球が当時の子供たちの最大のお目当てだった。ゴルフ球は弾力が強く、どこにもない絶好の遊び用具、東側の大塚・大宅集落近くの雑木林・草むら・畠でよく見つかったようだ。終戦後の私たち世代（当時小学生・中学生）の思い出は、その球ひろい、言うならば宝探しであった。また、事務所に届けると、10銭くれるとも聞いていた。ゴルフ場最大の山科への功績は、三条街道からまっすぐ南下する「ゴルフ場」の建設、沿道の開発に寄与したことだ。高まる戦時色の中で、昭和18年11月「山科ゴルフ場」は消えていった。「ゴルフ道」の名を今に遺して。

また、1996年11月28日付京都新聞には、国枝正彦氏が京都カントリー倶楽部の跡地の管理を任せていた父親の遺品を整理して、当時の設計図を見つけたと、紹介されています。

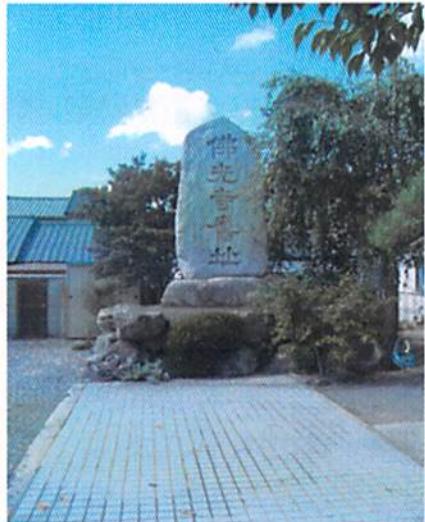
1925（大正14）年1月京都の有力者らにより現在の京都刑務所の東側に建設、運営された。当初は6ホールだったが、その後、約十万平方メートルに広げられ、9ホールになった。京都名所の一つにも数えられ、伏見の酒造会社のオーナーや皇族、近畿各地からの会員でにぎわったが、1943（昭和18）年、戦争のために運営できなくなって解散、戦後は、グリーンは畠になり、今は民家が建ち並んでいる。



## ■13. 仏光寺舊址

元応2年(1320)8月空性房了源は、阿弥陀如来・聖徳太子の像安置する寺を山科に建立すべしと「勧進帳」を著した。(出典「佛光寺の歴史と文化」佛光寺)

住持ノ本尊アリトイヘトモ、ウラムラクハ安置ノ精舍ナキコト。コトニ雍州ノウチ山科ノホトリニ一所ノ靈地アリ。ケタシ无双ノ勝境ナリ。ヤマフカク地シツカニシテ、サラニ慣闘（クワイ子ウ）ノコエナク、サトトヲクミチサカリテ、ハルカニ囂喧（ケウクエン）ノキトヲタツ。觀念ニタヨリアリ、練行ニサマタケナシ。仍コノ名区ニツイテ梵闘（ボムカク）ヲカマヘントオモウ。



このようにして、1323(元亨3)年に、了源が東野に興正寺を建てましたが、7年後には京都汁谷(方広寺付近)に移転して仏光寺と改称しました。その後、秀吉により現在地に移転させられました。なお、山科本願寺の建造にあたり、仏光寺経豪が本願寺に帰依し、山科本願寺の内寺に興正寺を建てました。この仏光寺舊址(きゅうし)碑は大正6年に仏光寺有教門主ご誕生を記念して建立されました。

#### ■ 14. 称名寺鍬形（痕）觀音（千手觀音立像）



明教寺に飾られている千手觀音立像の写真



称名寺の千手觀音立像

称名寺の門前に「東野村土中出現 観世音」と彫られた碑が建っています。この観世音とは平安時代後期の制作で寄木つくりの千手觀音菩薩立像のことです。

元々小山の十住心院(現在は、明教寺という浄土真宗本願寺派)のご本尊でしたが、山崩れによって仏閣や寺宝が音羽川に流されました。観音さまは、幸いにも東野村民が発見し、一度は戻されました。しかし、再度の山崩れで観音さまは流出して行方不明になったのです。数年後に東野の村人が川の中から夜な夜な光るもののを見つけ、相談して、鋤(すき)や鍬(くわ)で掘り当てたのがその観音さまだ



ったのです。そこで村民は縁が深い観音さまのお堂を建て祀ることにしたといふのです。このお堂は東野村松聲庵の別院といわれています。現在の称名寺のことです。この話は小山の明教寺の寺伝に記され、明教寺には写真が飾られています。鍬形觀音の名前は、村人が土中を探っていたときに観音さまの背中に鋤や鍬が当たってできた痕が残っていることに由来しています。こうした由来から、門前に「東野村土中出現 観世音」と刻まれた石碑が建っています。



松風や 音羽の川に 水澄みて

御名を称ふる 聲ぞすゞしき

なお、明教寺の縁起には、この千手觀音は聖徳太子の真作と記されていますが、文化庁の調査で、平安時代後期の制作と判明しましたから、清水寺のご本尊の十一面千手觀音の写し仏(模造)と考えられます。以上、

『松聲山称名寺第十七世 慈空孝裕著資料』より

### ■ 15. 熊谷蓮心表徳碑

### 東野村民が蓮心翁の徳を偲んで建立

碑 德 表



碑 德 表

京都鳩居堂主熊谷蓮心翁性好德義惠  
愛及物常憫牛馬之服苦老且不免屠殺  
故購其老疲不堪用者放於我東野村之  
郊養馬翁亦屢來視之因又目擊村民窮  
乏之狀不勝慨歎遂尽心救濟乃修堤防  
以除水害或給資以勸獎農事於是乎闢  
村民始得安堵就業延至今日者實係翁  
之恩澤矣翁以安政六年九月六日歿村  
民追慕無已今茲相謀捐金以建碑欲使  
後人永不忘其恩便是余之所以表記翁  
明治二十一年十一月朝倉善解撰并書  
洛北比丘空心題額

山城國東野村人共謀立石  
総代 安田伊右衛門

西雲寺に自然石の『表徳碑』があります。東野村村民(総代 安田伊右衛門)が明治21年に熊谷蓮心の徳をしのんで建立した記念碑です。蓮心(熊谷直恭)は天明3年(1783)～安政6年(1859)の人。京都の薬問屋鳩居堂の4代目当主でしたが、荷役や農作業に使役され老衰した牛馬を哀れんで放牧場を東野に設けて村民に従事させました。度々東野を訪れ、洪水や旱魃で貧窮する東野村を支援しました。これを村民が顕彰したものです。蓮心は文政8年(1825)正月に『牛馬放生すすめぐさ』と題して『老衰牛馬放生勧進辯』を木版刷で発行しました。その後、蓮心翁が津の川喜田家に宛てた文書が残されており、集古会誌(注1)には次のように記述されています。注1:明治29年11月20日第一輯発行

(前略) 尚々老牛放生の事御蔭ヲ以14ヶ年相続仕候己前とちがい御施主も甚だ少分に相成候得共まづ根本の放生地故持こたへ居申候若御志御座候はゞ毫疋にても御助被成被(略) 山科村の東野というところに放生場を設けて其飼養すところ少なきときも廿五六頭を下らざりしという、川喜田家に宛てたる文中十四五年已前開基といへば此尺牘は天保九年か十年の頃なり、而して此年迄既に放生数四百廿疋に上がれり。(略) 今年まで廿八年の間相続して救うところの老牛馬の六百五十頭に余れり。(略) 嘉永六年壽七十七歳を以て歿し。事業も継続して維新に至りしが、新政府となりて槇村知事の赴任するや鳩居堂に対して其趣意は賛成を表すれども馬は兎も角、牛は云々と至りては滋養第一の食品なれば放生は見合わす方可ならんとの意見にて此の光榮ある事業も遂に閉鎖するの已むなきに至れりという

その放牧場の場所ですが、現在の東野公園、旧京都刑務所の農場跡ではないかと考えられます。なお、山科中学校の敷地は、昭和23年7月に熊谷家の子孫の方から学校建設のために寄付されたことが記録されています。

碑文は彫りが浅いのが特徴です。その理由は短時間に完成させたからとも、しつかりした彫りをするだけの費用が出せなかったとも考えられます。放牧場は文政8年(1825)に開設され、明治維新政府の任命した槇村知事の意向で閉鎖されたと推測されます。明治21年には市制町村制が公布され明治22年には山科村になりますから、表徳碑が建てられた明治21年11月は東野村の最後の年です。

蓮心翁は安政6年(1859)に77歳でコレラに罹り逝去していますから、29年後、東野村がなくなることが判明した年の11月に東野村の人々によって建立されたのです。今回、紙芝居『東野村の人々と熊谷蓮心翁～表徳碑物語～』を観て頂きましたが、この紙芝居は、このような資料をもとに創作したものです。

この「表徳碑」から、村人の深い感謝の気持ちが伝わってきます。碑文は山本正明氏が拓本で明らかにされたもので、山科の歴史を知る会編『山科の歴史を歩く』(1988年同会刊)所収の碑文に拠りました。

また、熊谷蓮心は、大文字の送り火の費用を負担し、1836(天保七)年の凶作によ

る米価高騰、飢餓、疫病の流行などに際に、京都町奉行所の与力平塚茂喬の呼びかけに応えて町人有志とともに三条橋の南の川原に救小屋を建て、飢餓の流民に施粥、施薬を施し、その資金を提供しています。救恤は天保8年正月から翌年3月まで続き、対象者1480人の内、974人が死亡した。(菊池勇夫 PDF「荒歳流民救恤図」より)といわれています。

### 《寄り道》



←めずらしい車石の灯籠



↑毎年正月の伊勢神楽

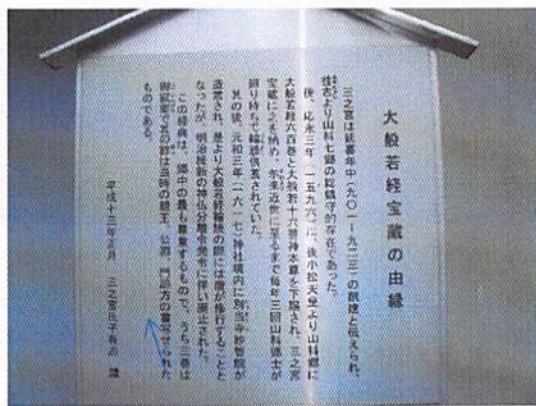
## ■16. 山科三之宮・大般若経



三之宮文書

当社は延喜年間醍醐天皇創建と伝え、東野八反畠町に位置する。中世後期には山科郷の総鎮守的性格をもったとみられる。文書は近世以降の大般若経寄進の由来に関するものしかないが、所蔵の大般若経は永和5年、応永2年等中世のものがみられる。

これは応永3年、後小松天皇により当社が復興され、その時に後小松天皇自筆のもの3巻を含め600巻が寄進されたことによる。その後元和元年、後水尾天皇により社領20石が与えられ、別当寺には妙智院がおかれた。この間火災等で大般若経の欠本が生じ、文政7年にはこれを補うため有栖川中務卿宮韶仁親王等により書写された経巻が寄進されており、その目録が存在する。



この大般若経は山科14カ村の郷土宅まわりもちで、1・5・9月に天読され、明治維新後の中断を経て、明治44年有志によって復興された。(史料京都の歴史11 山科区などより)



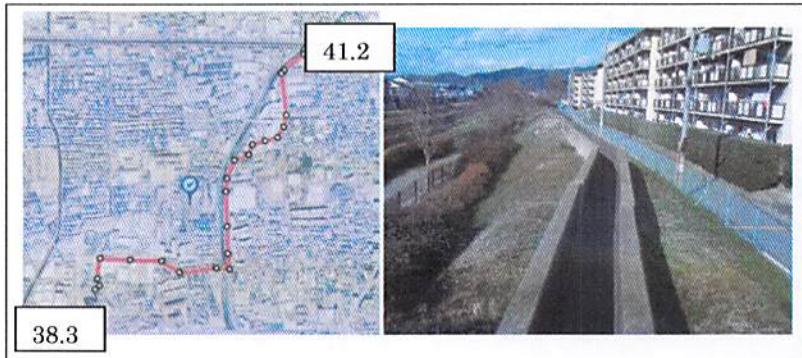
## 大般若經



大般若波羅密多經経巻第一 大旦那 藤原氏女 妙宗 沙弥道泉応永三年三月一六  
日 抵筆比丘相場中

前記のように、山科三之宮は延喜年中(901~923)醍醐天皇の創建とも伝えられ、山科七郷の総鎮守的存在でした。応永3年(1396)、後小松天皇(※)より山科郷に大般若経六百巻と大般若十六善神本尊が下賜されました。以来明治維新の神仏分離令に伴い廃止に至るまで毎年3回1・5・9月と山科郷士が持ち回りで輪読供養しました。これらの経典は親王、公家、門跡方が書写されたものです。その内、三巻は御宸筆と伝わっていたましが、近年、文科省の調査により御宸筆は現存しないことが判明。本殿は江戸時代の造営です。幹周り5メートルを超えるケヤキの大木があります。※後小松天皇 (1377年8月1日生~1433年12月1日没:在位1382年~1412)

## ■ 17. 上村用水（水堤防・上村堤防）



西野の農家の方は「水堤防」とよび、東野では「上村堤防」と呼ばれている用水路があります。

これは東野に五町歩余の土地を所有していた上村常次郎が

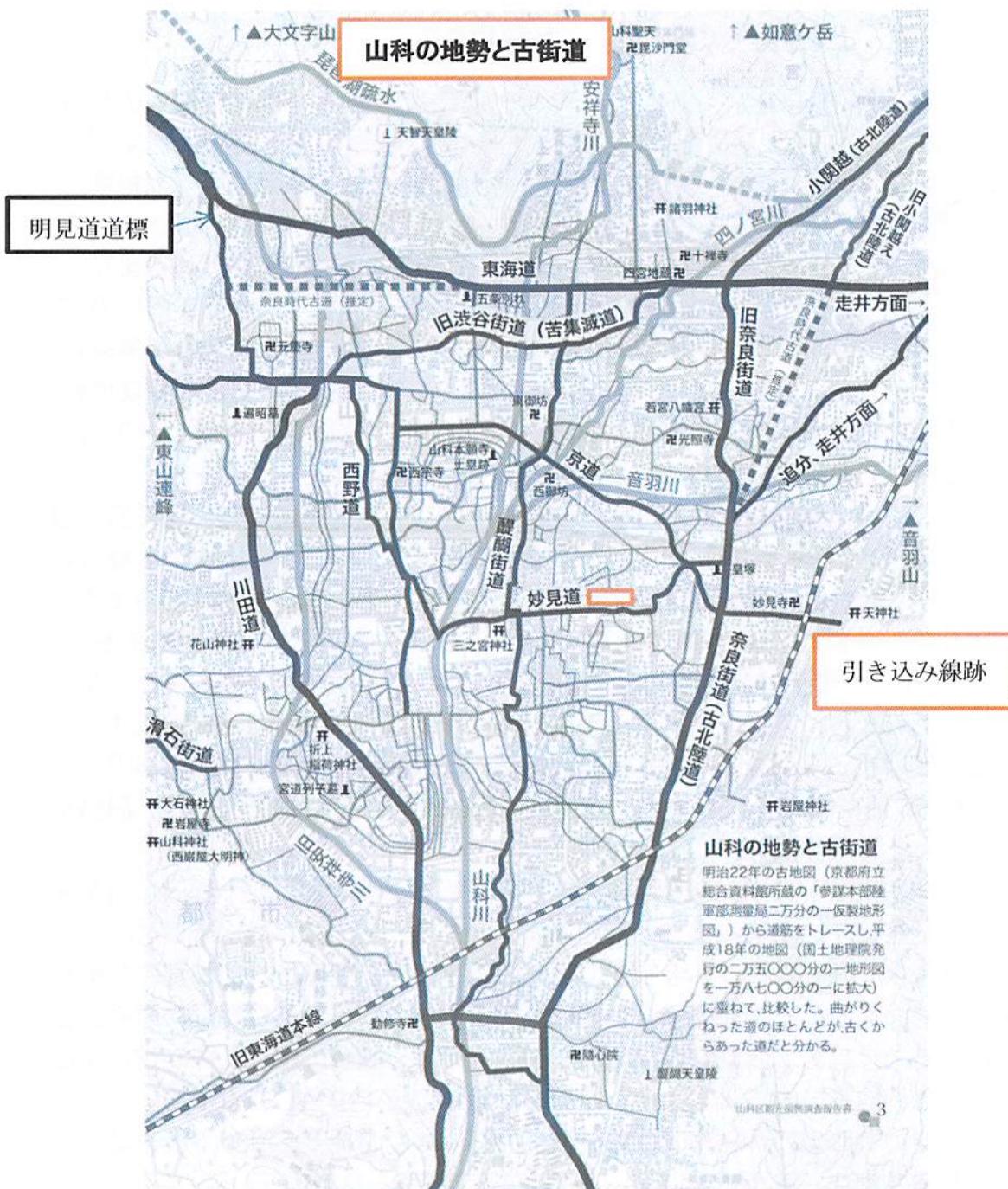
私財を投じて建設したものです。取水口は四ノ宮川が山科川に合流した下流で、現在は五条通りと山科川の交差する橋下にあります。

上村堤防は、離宮道まで南行し、タクシー会社の敷地を通って、妙見道、山科中学の西を山科川と平行して封ジ川橋まで南下し、そこから山科川を渡って鉄管で西に向かい、西野道をサイホンで潜り、栗栖野の台地に達しています。昭和54年頃まで木製の樋が使われていました。『わがふるさと栗栖野の歴史』（昭和56年11月発行：杉村政次著）では、「水門は三ノ宮神社から北へ山科川上流とし、下流は山科川の東側を南へ煉瓦造の水路を開発し完成する。水路を使用する水田は十一町九反歩、内栗栖野村狐藪から華ノ木の開拓田、二町四反歩の田に水が入ることになった。水路費一反につき六円四十銭。日当1円であった。」と記録されています。

旧土地台帳によれば、森野地域の畠地に「明治三十年七月二十七日 用水路成」と記されています。また、昭和44年まで煉瓦造の橋がありました。この場所は疏水と深い関連があります。第一に疏水建設に使用された煉瓦の材料を供給していたことです。栗栖野台地は上部洪積世の地質であり煉瓦の原料として適していたため、軽便鉄道（トロッコ）を布設し御陵の煉瓦工場に運びました。また、地主の中に疏水工事と縁のあった片山正中の名もあります。すると、上村常次郎のお孫さんの「地質改良の為に水が必要であった」との話は、興味を引きます。用水路の完成は、明治30年と考えられます。

## ■ 18. 真光寺

真光寺は『山科古図』に描かれているように東野の中央部にあります。宗旨は真宗にして西本願寺の末寺であり、その創建は足利時代の長享元年（1487）といわれています。2ページの山科古図で真光寺の場所を確認しましょう。



**参考** 明治22年測量の地形図(陸軍省発行)から道路をトレースし、平成18年地図に重ねたことが記載されています。(「山科区観光振興調査報告書」HPより転載)

#### 《編集を終えて》

やましなを語りつぐ会のフィールドワークや定例会で学んだ情報をもとに編集しました。提供いただきました皆様にお礼申し上げます。また、新たな情報や興味をお持ちの方ご一報ください。編者 説田三保 (075-593-5543)